　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和４年２月16日

報道機関各位

岩手県立大学ソフトウェア情報学部

岩手県立大学ソフトウェア情報学部と兵庫県立神戸商業高等学校情報科との
高大連携事業に関する協定の締結について

概要

岩手県立大学ソフトウェア情報学部では、ソフトウェア情報学に関する専門教育の担い手として、**県内の高校はもちろんのこと、県外の高校とも積極的に高大連携事業に取り組んでいます**。その一環として、本学部は、兵庫県立神戸商業高等学校情報科との間で、**岩手県立大学ソフトウェア情報学部と兵庫県立神戸商業高等学校情報科とのチャレンジ研究を目玉にした新しい形の高大連携事業に関する協定を締結**しましたので、お知らせいたします。本協定により、高大連携事業を通じた生徒・学生の進路意識や学習意欲の高揚を図るとともに、双方の教育・研究の活性化を試みます。

チャレンジ研究とは、岩手県立大学ソフトウェア情報学部の教員が提示したいくつかの高度なテーマに対し、兵庫県立神戸商業高等学校情報科の生徒が希望するテーマを選び参画する高大連携型の研究となっております。

高大連携事業に関する協定は、本学部としては、岩手県立盛岡商業高等学校、山形県立酒田光陵高等学校、京都府立京都すばる高等学校に次ぐ4校目となります。**兵庫県立神戸商業高等学校情報科は「主体的に考える力」を身に付けるための学習に取り組んでおり、「変化の激しい時代の中で国際社会をリードする人材育成」に力を注いでいます。本学部はこの人材育成支援の一端を担い、地域・社会への貢献を目指してまいります**。

記

**高大連携事業に関する協定調印**

* 日時：2022年2月10日(木) 郵送による調印

**経　緯**

本学部の入試広報活動の一環でアクセス後、2019年4月以降、兵庫県立神戸商業高等学校情報科から入学する学生が継続的に出現。**岩手県立大学ソフトウェア情報学部には情報分野の専門家が多数在籍する**ことから、2022年4年月よりチャレンジ研究を目玉にした連携を開始。

**本連携事業の特徴的な点**

* 情報分野の専門家が多数在籍している岩手県立大学ソフトウェア情報学部の教員が提示した複数の最先端のテーマに対し、その中から高校生が主体的にテーマを選び、参画、研究する点。
* コロナ禍により学校教育現場でのICT活用が急速に普及するなか、多数のオンライン会議システムやビジネスチャットツールが存在しており、その中から本学部の情報分野の専門家が選んだ最適なツールを組み合わせ、研究活動支援に効果的なオンライン学習環境を構築し、遠隔地にいながらシームレスに指導する点。

【問合せ先】　　岩手県立大学ソフトウェア情報学部 准教授 児玉英一郎

TEL：019-694-2500 Email: kodama@iwate-pu.ac.jp

<別紙資料>

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52　https://www.iwate-pu.ac.jp/

**1. 兵庫県立神戸商業高等学校について**

　神戸商業高校は、国や社会に有益な人材を育成することを目的として、1878年（明治11年）慶応義塾大学の福沢諭吉先生の協力により設立された創立143年を迎える我が国最古の歴史をもつ商業高校です。

「実学」をモットーに、「あきらめず本気で挑戦し、世界で活躍する人材の育成」を理念として掲げ、神戸商業高校ならではの人づくりによる『おもてなし日本一の商業高校』を目指しています。個性的な３つの学科（商業科、情報科、会計科）があります。

**情報科：**

「情報科」は、“主体的に考える力“を身に付けるために学習しています。情報科独自の校外学習や授業では、最新ＩＣＴ機器を活用したプログラミングやアプリ開発、情報セキュリティなどの専門学習を通して、国家試験など高度な資格取得にも挑戦できます。変化の激しい時代の中で国際社会をリードする人材育成に力を注いでいます。

**2. 協定締結内容**

（１） チャレンジ研究に関する指導・協力および課題研究に関する情報交換

（２） 教育・研究に関する甲及び乙双方の情報交換及び交流

（３） 甲の教員や学生による乙への授業支援や遠隔講義及び出張講義

（４） 乙の生徒の甲での講義等の聴講

（５） 乙の教員による甲の学生の教育実習等への協力

（６） その他、甲及び乙で協議の上同意した事項

**3. 本高大連携事業における特徴的な取組例**

* チャレンジ研究を目玉にした新しい形の協定：
　チャレンジ研究とは、岩手県立大学ソフトウェア情報学部の教員が提示したいくつかの高度なテーマに対し、兵庫県立神戸商業高等学校情報科の生徒が希望するテーマを選び参画する高大連携型の研究。

2022年度（令和4年度）のテーマは以下の通り。

1.『無人航空機と画像認識を利用した安全自動航行システムの開発』

2.『商店街 の現状を 「見える化 」してみよう ！』

* コロナに負けない教育研究：
　コロナ禍により学校教育現場でのICT活用が急速に普及しており、教育研究において効果的にICTを駆使できる環境となった。一方で、多種多様な、オンライン会議システムやビジネスチャットツールが存在しており、やりたいことを効果的に実現するためのツールの選定は、その分難しくなっている。本チャレンジ研究では、本学部の情報分野の専門家が選んだ最適なツールを組み合わせ、研究活動支援に効果的なオンライン学習環境を構築し、遠隔地にいながらシームレスな指導を行う。

（以上）